

ASEAN グローバルプログラム に参加して

中村 寅生
Tomoki NAKAMURA
電子情報学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけて、ASEAN グローバルプログラムに参加し、ベトナムの首都ハノイとシンガポールにて、日系企業・現地企業への訪問、ハノイ工業大学の学生とのPBL (Problem Based Learning) 活動、南洋理工大学の見学・学生との交流、シンガポールで働く日本の若手ビジネスパーソンの方々との交流を行った。このプログラムを通して経験したこと、それを踏まえた今後の課題を記す。本稿では、以下に示すシンガポールでの活動について、その詳細を記す。

9月2日(日)	シンガポール到着, WASABI Creationでの講演会
9月3日(月)	南洋理工大学での各種プログラム
9月4日(火)	Googleでの講演会, 加藤氏の講演会, ビジネスパーソンとの交流会
9月5日(水) -6日(木)	自由時間, 帰国

2. 参加目的

私はこれまで一度も海外経験がなく、留学などで海外に行きたいと思っていたが行動に移せないでいた。そんな時にこのプログラムを知り、ぜひ参加して経験を積むことで自分を成長させたいと考えた。また、グローバルになりつつある社会で英語は必要不可欠であるため現在の自分はどれほどの英語力があり今後どのように伸ばしていけばよいかを模索する良い機会だと感じたため参加を決意した。

3. 研修内容

プログラムで訪問した企業はいくつかあるが、最も印象に残っている WASABI Creation と Google について報告する。シンガポールに到着した初日、私たちはシンガポールや東南アジア、日本で事業展開をしている WASABI Creation を訪問した。そこでは到着したばかりの私たちを迎えてくださるかのようになり、丁寧にシンガポールの情勢について教えてくださった。まず驚いたことは、シンガポールは他の国々に比べて非常に歴史が浅いということだった。しかし、実際に見たシンガポールは建国53年という短い歴史であるにも関わらず、経済的に著しく発展している国だと感じた。また、琵琶湖とほぼ同じ面積であり、シンガポールの人口の約4割が永住者でありその他は外国籍の人だということにも驚かされた。他にもシンガポールはマレーシア連邦から追放される形で都市国家として分離独立したことやその影響で作られたシンガポールの理念など多くのことを学んだ。

このプログラム最後の企業訪問である Google では普段入ることのできないオフィスに行き、海外でのワークスタイルを学んだ。そこで、まず私が不思議に感じたのは社員の方々が同じテーブルでご飯を食べながら会議をしていたことだ。案内して下さった方もおっしゃっていたが、そこが日本では感じられない海外のワークスタイルなのだと感じた。

Google での講演会では Google の歴史をまず学習した。ここはラリー・ページとセルゲイ・ブリンの2人が論文を書くために創立したということを知り驚いた。また、現在の Google 社の収入は87%が検索広告や動画などのデジタル広告であることにも驚いた。Google のミッションは「世界中の情報を整理し、世界中の人々がアクセスできて使えるようにすること」とあり、私から見れば Google 社はその目標を達成しているように思えるが、実際はアメリカなどでは普及しているが、インド・インドネシア・ブラジルなどでは普及率が40%と低く、今後、



写真1 Google 訪問の様子

ユーザー数を伸ばすためにはこうした国々を重要視することが大切だと言っていた。このように普及率が低いには理由があり、インドやインドネシアでは字を読むことができない人も多く、言語対応に関して課題がある。つまり、いまだにソフトウェアが言語対応できていないことが原因であり、アメリカなどの先進国ではスマートフォンの普及率が高く、ユーザーも多いが、今後伸びしろのあるインドやインドネシアなどの国々に焦点を置くことが今後の課題だと理解した。他にも、情報のクオリティーを保つために Google を利用したユーザーの興味のある情報を管理し、ユーザーにとってより使いやすくすることへの情熱が感じられた。

Google 訪問の後に行われた日本人ビジネスパーソンとの交流会では、シンガポールで働くことの意味や、シンガポールで働くことになった経緯など、学生からの質問に答える形式で行われた。4人の方々からお話を聞くことができたが、海外で働くことを目標にしてきた方もいれば、そうではなく、日本で働いているときにシンガポールで働くきっかけを得た方など、海外で働く経緯はさまざまであっ

た。しかし、経緯はばらばらであっても全員に共通していることは、学生の頃から海外留学などで海外に滞在した経験があるということであった。話を聞いていると学生の頃の経験で海外に対する意識が変わり、海外で働くことに惹かれたようだ。今回私が参加した理由のひとつに海外経験をしてみるのがあったが、ビジネスパーソンの方の中にも海外留学から意識が変わり始めたという意見があったので今回このプログラムに参加したことには大きな意味があったように思う。加藤氏の講演では、加藤氏の今までの人生について話していただき、そこから私たちはこれからどうすべきか考える良い機会になった。加藤氏の言葉の中に普通とは違うことをすることの大切さというものがあり、今回のプログラムに参加することの重要さに気づかされた。また、高めあえる仲間の存在を大切にしろという言葉もあり、人間というのは周りの友達などの環境によって未来さえも変えられるものだというのを加藤氏の実体験に基づいてお話してくださり、周囲の人達の間で意識を高め合い、自分自身を変える意識を持ち続けることの重要さにも気づかされた。

4. おわりに

今回、初めての海外を経験して、自分の英語力の程度や、海外で働くことの意味などについて、多くの方々から話を聞くことで、理解することができたと感じている。今回出会った方々の話を参考にし、今後、自身のキャリアをしっかりと築いていこうと思う。最後に、今回の研修に関わったすべての方に感謝申し上げます。